「桜の樹」 ニュースレター vol 2

岡倉天心記念　がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」　2021.5

わに塚の桜　山梨のカピバラさん撮影

『真の国際人』～「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物 ～

樋野興夫

内村鑑三（1861-1930）の『代表的日本人』（1894年）、新渡戸稲造（1862-1933）の『武士道』（1900年）、岡倉天心（1863－1913）の『茶の本』（1906年）はともに英語で書かれ、日本の文化・思想を西欧社会に紹介したものである。 英語で、日本（人）を深く、広く、丁寧に 海外に紹介出来た人物は、この 3人 ではなかろうか！　この3人は、「英語力 と 教養」を備えた 明治以降の 日本が誇れる人物である。 明治時代の3人の 「格調高い英語力」と「深い教養」と「高い見識」には驚くばかりである。100年後の現代に生きる我々は、「真の国際人の定義」を再考すべき時であろう。『真の国際人』とは、「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物であり、明治維新以降、「内村鑑三・新渡戸稲造・岡倉天心」は、『真の国際人』のモデルであろう！

樋野先生が20年前、熟読された『茶の本』 岡倉天心（覚三）著 岩波文庫

有志が「茶の本」をそれぞれで読み始めていますが難しいです。

「難しいことはみんなでやる」樋野先生がご著書の中で仰っています。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

『真の国際人』の3か条

理念：　「世界の動向を見極めつつ歴史を通して今を見ていく」

使命：　『俯瞰的に「人間」を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念」を問う人材の育成』

社会貢献：『複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔き』

『真に勇敢なる人は常に沈着である。── 吾人はこれを「余裕」と呼ぶ。

それは屈託せず、混雑せず、さらに多くをいれる余地ある心である』（新渡戸稲造『武士道』より）。

ミニオン撮影

ミニオン撮影

「私の誕生日」　　ミニオン

皆さんには誕生日はありますね。

私には二回あるのです。一回目は世の中に生まれた日。

そして二回目は・・・・

２０年ぐらい前から大きな病気。難病を持って生活をしていました。それは血液のガン。将来は白血病になる病気です。長い間経過観察が続き、月日を重ねると病気が進んでしまい抗がん剤治療を行っていました。しかし、これもピタリと効果がなくなりました。

次のステージは絶対にやりたくない治療、骨髄移植です。しかし、生きるための選択をしなければなりません。成功率は２分の１でした。

長い間考えた結果が前に進む「頑張って治療をしましょう」でした。

準備としてドナーバンクに登録して自分と同じ骨髄の人がいるかが問題です。幸い数人いました。

移植当日が第二回目の誕生日です。生まれ変わって元気になろう。

未来への移植。骨髄バンクからの血液との相性が良く回復が素晴らしいのです。

移植して一年。「もう一人の私」に変身しました。 To be continued.

はじめてお便りさせていただきます

ヤマザクラネコ(=^・^=)

たまたま、がん哲学外来の HP を拝見していましたら
『「桜の樹」ニュースレター創刊号　』が目に留まりました。
さっそく、プリントアウトして、読ませていただきました。

ステキ！
「桜の樹」・・・すてきなネーミングですね。
桜の木がたくさん集まっているイメージでしょうか？
「桜の樹」
「桜の木」でも「桜の森」でもなくて、
「桜の樹」いいですね～

年々、桜の開花が早くなっている気がしていますが、
今、こちらでは、八重桜がちょうど見頃です
桜の花咲く時期にスタートしたニュースレター
みなさんの文章を読みながら、桜の思い出が蘇ってきました。
桜は、これから、葉っぱの緑もきれいですね。
そして、暑い季節には、緑が生い茂り木陰で一休み
秋の落ち葉も色とりどり
冬は、つぼみがジーっと耐えて春を待つ
いつも静かに見守ってくれている感じがします。

学校の桜、河川敷の桜、あの人と一緒にみた桜
あの桜の木の下で一緒に食べたお弁当・・・
思い出がつきません。
「桜の樹」からいろんな思い出がつながってきました。
今日は、のんびり思い出に浸りながら
桜の樹に見守られている気分を味わいつつ過ごしたくなりました。

ニュースレターを読ませていただいた感謝と感想をお伝えしたくなりました。
いつの日か、巣鴨カフェに参加できる時を楽しみにしています。

根津神社　さくら撮影

せかいがかわってしまったら　　まぐ

「せかいがかわってしまったら
　　じぶんもかわってしまえばいい」

以前、がん哲学外来カフェで知り合った方からいただいた絵本にあった言葉です。

私が、コロナ以降ずっとステイホームの状態にあることを気遣って絵本を送ってくれました。

コロナ禍で世の中がすっかり変わってしまったようで、もう普通の生活には戻れないかも、自分や自分の周囲はこの先どうなっていくのかしら・・etc
不安な気持ちでいた時だったのですが。この言葉で、なぁんだ自分も変わっちゃっていいんだ‼と、フッと肩の力が抜けて、気持ちが楽になりました。
「この先、今までの自分と同じである必要なんてない」こんな簡単なことにどうして気が付かなかったのでしょう。

何気ない一言が、気持ちを楽にしてくれることがあるのだと改めて思いました。

親しい方々と会えない状況が続いていますが、気にかけてくれる人がいるありがたさも実感したのでした。

早くコロナが収束して、カフェの皆さんともお会いできますように。その日が来ることを楽しみに、日々ステイホームで過ごしています。

編集後記　　さくら

ヤマザクラネコ様、見つけて下さりありがとうございます。「桜の樹」は、伐採し加工されたものにも使われる「木」ではなく、生きている立ち木だけを意味する「樹」をイメージしました。「桜の樹」が、しっかり根を張ってそこに立っていれば、蝶や鳥が集まり、栄養や種を運んでくれることもあります。夏暑くて辛いときは、木陰で休んでくださる方もいるかもしれません。四季折々の「桜の樹」の変化は、人を癒すことも勇気づけることもできるかもしれません。それぞれのタイミングで、集まって下さる方同士の交流がうまれ、力を分け合えるような場となっていけたら、という願いを「桜の樹」というネーミングにのせました。巣鴨のカフェを「桜の樹のような場所に・・」カフェをはじめてから出会った皆様がそのように気づかせて下さいました。
まだまだ若木の「桜の樹」では、ありますが、強くしなやかに、ここにあれたらと思います。このニュースレターも同様です。どうぞよろしくお願いいたします。

編集：岡倉天心記念　がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」　山本　ひろみ
TEL 090-8501-0826　gantetu_sakura@yahoo.co.jp
https://sugamo-sakura.com/
後援：一般社団法人がん哲学外来